

はじめに

学びの連続性を意識した実践を続けて ～専門性の向上につながる実践を～

本校は、子どもたちの学ぶ内容の明確化と『つながり』のある指導計画の作成について整理・検討・実践・改善をしていく研究と関連付けた学校経営を3年間続けております。学校経営のテーマ『つながり』は、3年間継続しながら大切にしてきたキーワードでもあり、『いのち、学び、ひと、地域とのつながり』において学校教育、ひいては、子どもたち一人ひとりの成長を前に進めるものと考え、これまでの研究成果から、さらに、学びの連続性をより意識して今年度は学校研究に取り組んで参りました。

3年間の研究の成果としては、次のようなことが特徴的なこととしてあげられます。聴覚障がい教育部においては、言葉にかかわる職員研修を行ったことで、言葉の課題の適切な把握に努めることができ、また、日常会話から意識して意図的な言葉掛けができました。知的障がい教育部においては、学習内容表や実施記録を活用し、学習内容の選択や年間指導計画の改善に取り組むことができました。生活につながる授業づくりについては、日常のどのような場面で活かされるかを考えながら目標や教材、支援等について検討することができました。聴覚障がい教育部と知的障がい教育部の専門性を高めるために、学校研究によって、各学部のつながりと学びの連続性を意識し、個々のニーズに合わせた指導支援が前進できたと考えております。

さらに、子どもたちの学びの記録については、よりよい引継ぎ資料となるよう工夫と改善が必要であり、課題も見受けられましたので、これから学びの連続性を意識した授業実践を通して、今後も子どもたち一人ひとりの確かな学びにつながるよう努力して参ります。

この度の「授業研究実践集」には、3年間の研究の足跡を収録いたしましたので、忌憚ない御意見や御指導、御助言をいただければ幸いです。

最後に、公開研究会で御助言をいただきました、荘司 秀明先生、県立楯岡特別支援学校寒河江校 土肥 修教頭先生、県教育局特別支援教育課 飯沼 恵先生、県立鶴岡高等養護学校 秋山里枝先生に心より感謝申し上げます。

令和7年3月

山形県立酒田特別支援学校
校長 五十嵐 仁